

論文内容の要旨

報告番号		氏名	松原 翔
Subtype I (intrinsic) adenomyosis is an independent risk factor for dienogest-related serious unpredictable bleeding in patients with symptomatic adenomyosis.			
和訳： 子宮内膜側に発症する子宮腺筋症はジェノゲストによる多量性器出血の危険因子である			

論文内容の要旨

【背景】

子宮腺筋症は閉経前の女性に生じる一般的な婦人科疾患である。子宮腺筋症に対して、黄体ホルモン療法として広く使用されているジェノゲストには副作用として不正性器出血が生じることがあり、時に輸血を含めた緊急の処置を要するほどの多量出血となることがある。子宮腫大はジェノゲストによる多量出血の既知の危険因子であるが、その他の危険因子については指摘されてこなかった。今回我々は子宮腺筋症に対してより安全にジェノゲストを使用できるよう、不正性器出血に関与する危険因子を抽出することを目的とし、後方視的観察研究を行った。

【対象と方法】

2008年4月から2017年8月の期間に子宮腺筋症に対してジェノゲストを処方した84例を、Kishi分類のSubtype1(内膜側病変)、Subtype2(漿膜側病変)に分類した。Subtype分類不能群とデータ欠損群を検討から除外し、37例を対象に検討を行った。ジェノゲスト内服中に不正性器出血によりHb値が2g/dl以上低下するか、Hb値の最低値が8g/dl以下となった症例を出血群、多量出血が生じなかった症例を継続群とした。2群間で年齢、BMI、分娩回数、帝王切開回数、内膜搔把既往の有無、卵巣チョコレート嚢胞の合併、子宮筋腫の合併、子宮筋層厚、子宮腺筋症厚、子宮底長、ジェノゲスト内服期間、子宮腺筋症Subtypeについて χ^2 検定を用いて比較検討した。

【結果】

37例のうち出血群は14例、継続群は23例であった。これらの群に対して各因子を比較検討したところ、Subtype1が多量性器出血の危険因子として抽出された(p=0.027)。

【結語】

子宮腺筋症に対してジェノゲストを使用する際には子宮腺筋症の局在に注意する必要性が示唆された。